

【開催レポート】アヤセ未来会議 第5回を開催しました！

作成:株式会社エンパブリック

○開催日時 令和5年2月26日(日) 10:00~12:40

○会場 オーエス東京ビル5階

第5回では、最終回としてここまでのチームの活動まとめや、綾瀬のまちにある4つの課題に対してそれぞれの活動から始まる未来の綾瀬のイメージ「アヤセ未来シナリオ(仮)」を作成しました。

■ワークショップ第5回(10:00~11:50)

1. 導入

はじめに、全体ファシリテーターの広石(株式会社エンパブリック)から第1~4回で行ってきたことのふりかえりや第5回の進め方、これからの活動などを参加者の皆さんに伝えました。

“これまでの活動で、「こんなことできたらいいな」と言葉にしてみたら意外とできたり、具体的に考えることで色々なことが生まれたり、トライしてみることで活動のノウハウなどが生まれたりすることが分かりました。自分ひとりで動くとなかなかうまくいかないことも、「それいいね」と一緒にやってくれる人がいることでより良い未来が生まれます。

全5回のワークショップは一旦終わりますが、生み出されたチーム活動は綾瀬にとって必要なことばかりです。ぜひチームとして活動したり、展開したりしてみてください。メンバーを固定しなくてもいいですし、個人で立ち上げるという方法もあります。私たちも新しいことを考えている人がいたら一緒にできたらいいと思います。”



2. グループごとでの活動まとめ

これまでの活動について各グループで話し合いました。

話し合いは和気あいあいとした雰囲気で行われました。第1回と比べると、メンバー個人のキャラクターもよくわかるようになり、それが全員に共有されていました。

活動状況はグループ内だけでなく、グループ間でも情報共有されており、この5回の活動でメンバー同士の関係性がよりオープンになったとともに、発展している様子が見られました。

<アヤセ未来プロモーション部>

現状では足立区のPRコンテンツが少ないこと、情報を区外に広げる手段がないことなどの問題点が挙げられた。

誰にでも簡単に拾ってもらえるような情報発信の方法を考えていく必要があること、足立区のシティプロモーション課との連携が必要であること、効果的なPRは有料という課題にも言及。まずは、アヤセ未来会議のメンバーにインタビューするなど、自分達から情報を発信していく。



<アヤセしみじみ会>

年に一度くらいは、フリーコーヒーやゴミ拾いなど、自分たちにできる大きいイベントをやっていきたいというコメントに、メンバーからゴミ袋の調達方法や、「ある団体ではゴミ拾いをやった後にコーヒーを飲んで解散ということをやっている」などの、参考になりそうなアイデアが次々に出されていた。さらに、有益な参考図書の紹介など、チーム内で活発な情報交換があった。



<綾瀬のえんにち>

目標の一つである「子どもと大人が交流する場の提供」に関して、子どもが積極的に関わりたいとなる大人とはどんな人物かとの話題から、東綾瀬中学校の様子、最終的には地域の水害の話に発展するなど、一見関係ないような話題も地域の歴史や情報共有の場となっていた。年長者が在籍する男性のみのグループ。このような穏やかな流れの中からアイデアが生まれている。



<インプロ部>

インプロを通じて他のメンバーとも相互理解を深められるように活動したいという目標があり、まずはプロのインプロトレーナーを会場に招くなど、明確な目標とそれに沿った活動が印象的だった。



※ 綾瀬まち歩きマップチームは、チームメンバーの都合により欠席

3. 4つのテーマをもとに綾瀬の良いまちの未来を描く

これまでのアヤセ未来会議で考えてきたことやチーム活動の問題意識から、綾瀬には共通する4つの課題が浮き彫りになりました。その4つ、「子どもの体験の機会」「つながりが弱い」「地域にあるものの活かし方」「地域ブランディング」について、グループを離れ、テーマ別に話し合いました。



4. 全体振り返り

最後に、これまでのアヤセ未来会議の振り返りとして、各グループで自由に感想を述べ合いました。皆さんからは綾瀬への関心や地域活動が想像以上にあったことへの驚きや、綾瀬の課題を知り、未来を描いて活動することの意味を実感したとの声が挙がっていました。

《参加者の声》

- 足立区のこと・ニーズ・課題などを色々調べるようになった。また、課題について調べていくうちに段々と区政の考え方に近づき、足立区の政策の意味や方向性に共感できるようになってきた。
- ビジネスの視点だけでなく、地域のことを考える人たちが集まる会は初めてだった。ビジネス以外のつながり方に気づいたと同時に、この会で新しい人脈も広がった。
- 今まで「今、自分が楽しい」と思った活動だけをしていた。未来に子どもや若い人たちにどんな地域を残したいのかという新しい視点が入ったことで活動の視野が広がった。自分にも子どもがいるが、子どもがこれから育つ地域として綾瀬を意識していなかったことに気づいた。アヤセ未来会議を経て、自分がもっとできることがあると感じた。

- 綾瀬のまちに関心を持っている人がたくさんいることが最大の発見。しかも、全ワークショップを通して真面目に変わらず熱心に綾瀬の良さを考えている。長らく地域に住んでいたが、そのような人がこんなに綾瀬にいるとは気づいていなかった。
- 在勤者なので綾瀬については会社と駅、せいぜい駅前の店を利用するくらいだった。みなさんに会い、綾瀬にたくさんの活動があり、これからの可能性があることに気付いた。

■活動共有会(12:00~12:40)

1. チーム活動の共有

アヤセ未来会議の活動の経緯について、広石拓司(株式会社エンパブリック)から説明後、各チームの代表者が活動の成果と今後についてパワーポイントを使って発表しました。発表資料を添付。

<アヤセしみじみ会>

概略: スタート地点は気軽に集まれる場所の提案。自由で気軽な集いを作りたいという思いから発足。人と綾瀬、人と人をつながる場所として、フリーコーヒースタンドをやってみた。

今後の活動: 3月18日(土)にしみじみ会を実施予定。“しみじみブレンドドリップバッグ”を作ったので限定販売して活動費にする予定。4月はアースデーに勉強も兼ねて出店する。アースデーが終了したら一回振り返りをする。



<インプロ部>

概略: SDGs という観点からも人と人とのコミュニケーションは大切であり、上手に演じることよりコミュニケーションに重きが置かれたインプロ(即興劇)は良い取り組みがと思った。また、この活動を行うことが心理的安全性やチャレンジできる街を目指すことにもつながっている。

今後の活動: 体験会を実施する。4月8、9、10日が候補日。場所と費用を募集。



<綾瀬まち歩きマップ> ※メンバーの都合が合わず欠席のため、広石より紹介

概略：綾瀬には魅力的なお店があるのに知られていない。さらに、子育て中の方やペットを飼っている人などが気軽に使えるお店の情報もなかなか広がっていない。お店の情報を載せたInstagramアカウントを運営することで、もっと街の魅力を知ってほしい。

今後の活動：これからより多くの人に関わってもらえるようワインプレゼントなどの実施（案）も考えている。



<あやせ未来プロモーション部>

概略：綾瀬には魅力的な資源が豊富にあり、住みやすい街である。しかしその反面、特徴がないため、その良さが伝わっていない。それを払拭すべくPRしていく。

今後の活動：まちのキャッチコピーを作る、シティプロモーション課の開催するワークショップへの参加、ラジオ出演、参加者へのインタビューなど少しずつ始めたい。



<綾瀬のえんにち>

概略：子どもたちに託せるまちづくりがテーマ。安心安全で誇れるブランド力があるまち＝住みたいまち。子どもたちが学校では学べないことを体験する場を増やしたい。各グループの一つ一つの活動が既にブランドになっているので、それを集結しマルシェ化していく役割として活動したい。

今後の活動：4月9日（日）蛭沼公園で綾瀬のえんにちを開催したい。これならできそう、という実験的な場としてやってみたい。



2. アヤセ未来シナリオ(仮)の紹介

チーム活動がどう綾瀬の未来につながってほしいかを、今の綾瀬の4つの課題、「子どもの体験の機会」「つながりが弱い」「地域にあるものの活かし方」「地域ブランディング」に対して、私たちの活動ができること、生み出したい波及効果などを話し合いました。

<子どもの体験の機会>

大人も楽しめることを実施して、プラスアルファすれば子どもも楽しめる。例えば、子どもの頃に機会が創出されていた場所としてはキャンプなど。火を囲みながら話し合うのも良い。地域の情報共有には、アナログの掲示板などが意外と良いことが分かっているので、うまく活用したい。



<つながりが弱い>

小さいコミュニティがいっぱいあって、それがつながっていくことで、結果的に身近な集まれる場所がある綾瀬を色々な地域のロールモデルにしていきたい。円が小さな集団で、円でつながっていて、どこからでも誰でも入っていけることをイメージしている。



<地域にあるものの活かし方>

人が財産だというのが重要。仕事にしている人ではなくても名人などがいる。ただ、シャイな人が多くて目立たない。ポテンシャルが高い人が多いので参加してもらおう場所と機会があると良い。できるなら公園、高架下などを積極的に活用したい。



<地域ブランディング>

綾瀬は「〇〇なまち」というキーワードで考えた。「はじまりのまち」「夢あるまち」「人がくるまち」「発信されるまち」など。ディープなスポットが綾瀬にはあるので、地域の方と一緒に協力して良い綾瀬のイメージを作っていけたら良い。



3. 区長よりコメント

活動共有会でこれまでの活動成果について全員で共有した後、最後に足立区近藤区長からコメントを頂きました。

“私は生まれてずっと梅田に住んでいるのですが、そんな人間から見ると、綾瀬の人って贅沢だと思っていました。緑がある、メトロがある、乗ればすぐに大手町に着くような利便性があります。きっとそれが当たり前で、さらに住みやすさ、充実感を求めていると思います。そして意外だったのが、住んでいる人の評価が低いことです。

今あるもの、高架下や学校跡地の活用、保健センター、旧こども家庭支援センター等跡地など、まだまだ要望の受け皿はあります。これから何が必要か考えていきましょう。

都立東綾瀬公園の活用の仕方を東京都に交渉していく方法もあるし、活用のハードルを下げていく方法もあります。



これまでは自治体やPTAなどが中心に、街の未来を考えることが多かったですが、それ以外の場所ではアヤセ未来会議が初めてではないでしょうか。こういう活動が足立区のいろんな場所でできるようになってほしいし、区として支援していきたい。これで終わりではなく、これが始まりと考えています。”

最後に、綾瀬町会自治会連合会の山崎会長からも激励のコメントを頂き、アヤセ未来会議の全5回の締めくくりとなりました。